

鳥坂寺跡整備検討委員会 会議録

◆第5回会議（2013年10月10日）

時間…10：00～12：00

場所…柏陽庵2階

1. 開議

2. 事務局あいさつ

事務局：平成25年8月1日付けで、生涯学習部長の岡本彰司が市民部長、市民部長の林和彦が生涯学習部長へ異動となったことをご報告する。

3. 委員委嘱

事務局：前回の会議で推薦された奈良文化財研究所文化遺産部主任研究員の中島義晴氏を新たな委員として委嘱する。

【委嘱状交付】

4. 審議

(○…委員からの意見・質疑、▲…事務局の回答 ※…オブザーバーからの意見)

1) 『鳥坂寺跡整備基本計画（案）』「第3章 保存管理計画」

第1節 保存管理基本方針、第2節 保存管理について

【事務局から説明】

○鳥坂寺周辺の当時の道路状況などはわかっているのか。

▲寺院にアクセスする道路は見つかっていないが、寺院造営に関わったと見られる集落、古墳が見つかっている。

○道路の有無で、当時の人の流れが想定でき、人の流れは寺院の景観を考える上で重要である。

○具体的な人の流れは不明だが、寺院の南側にある谷川や北側にある集落からのアクセスは想定できる。案内板では、破線になるが、道路に関する表示は必要である。

※史跡指定地における現状変更について、文化財保護法第125条による文化庁長官の許可を必要とするものと、文化財保護法施行令第5条第4項に基づいて市が許可を

行う軽微な現状変更を行う場合とを仕分けたほうが、今後わかりやすい。また、C地区に関して「遊具の更新」とあるが、遊具の設置は目的外使用となるため、史跡の保存管理計画に盛り込まないほうが良い。

▲文化庁が示した事例をもとに、検討する。

2) 『鳥坂寺跡整備基本計画（案）』「第3章 保存管理計画」

第3節 活用計画、第4節 整備計画について

【事務局から説明】

○河内六寺など、広い視野からの活動を想定しているが、これとは別に鳥坂寺自体での活動も盛り込んで、特色を出したほうがよい。

○寺域について、どこまで具体的にわかるのか。

▲発掘報告書の中では、南にある谷川を寺域の南限と想定した。ただ当時の谷川の位置が不明なため、検討は必要である。東限については、食堂の東で見ついている溝が東限に想定できる。北限は、集落との境界地に求められる。西限については、天湯川田神社のある丘陵が納まる範囲とみられる。この辺りに、道路といったものが想定できるかもしれない。

○寺城南限とみられる谷川の水源地はどうなっているのか。

▲東側の山地まで遡ることができ、地形に沿った川であるため、時代が移っても大きく位置は変化していないとみられる。

○寺院の立地や、前期古墳を壊して土地利用している点、僧房・食堂など付属施設が見つかっていることも鳥坂寺の特徴としてアピールしたほうが良い。

○寺院近くにある安堂第6支群3号墳に続く古墳はあるのか。

▲見つかっていない。これの前代にあたる安堂第5支群16号墳があり、有力者の墓が2代にわたって見つかっている。

○新堂廃寺とお亀石古墳のように、寺院造営者の墓とはいえないのか。

▲可能性はあるが、古墳から瓦などは見つかっていない。ただ安堂第6支群3号墳では、鳥坂寺でもみられる凝灰岩切石が石室内に敷かれており、寺院造営資材の廃材利用とすると、密接な関係が想定される。古墳の時期は7世紀前半、中頃、後半など様々な意見があり、鳥坂寺の創建が7世紀後半であれば、両者の時期差が問題となる。集落と古墳の関係については、集落がピークを迎える7世紀に古墳が造られていることから、集落と古墳被葬者との関係は想定できるのではないかと。

○河内六寺の造営集団が、すべて知識という考え方もあるが、鳥坂寺は有力氏族が中心となって創建され、後に知識が深く関わっていったという流れではないか。2つ

の大きな古墳も、その中心氏族の前代の墓とみることもできる。

○鳥坂寺と古墳被葬者との関係については、鳥坂寺の性格に関わる問題で重要である。古墳の位置づけを行い、古墳への案内板などがあってもよい。

○「活用計画」に柏原市市民歴史クラブ、鳥坂寺保存会が挙げられているが、他の団体について触れなくてもよいのか。

▲ご指摘のように、市内を中心に歴史・文化財に関わる活動をしている団体が、他に2つほどある。鳥坂寺と関係している団体として、先の2つを挙げているが、誤解を与えないよう整理し改める。

○「史跡を生かした景観形成」について、現段階で具体的に明記する必要はないと思うが、眺望を妨げるような建物や木が植えられないことがないよう、守っていききたい史跡内外からの眺望を整理すべきではないか。

▲整備基本計画案では、あくまで鳥坂寺からの景観であり、河内平野を一望でき、眼下を流れる大和川の様子がわかる場所を展望スポットとしている。史跡外からは、対岸に位置する片山廃寺を含めた大和川からの景観が重要だと考えている。そういった景観の視点からも、鳥坂寺の立地、重要性について触れていきたいと考えている。

○大坂城のあるあたりが示せれば、当時の都の難波宮との位置関係はかなり良く分かる景観といえる。

○近畿日本鉄道との話し合いは行われているのか。

▲近鉄を含めた史跡内の土地境界線等の書類手続きは済んでいる。整備後の活用について、近鉄には何らかの形で関与はしてほしいと考えているが、具体的には進んでいない。また、寺域を縦断する大正15年の線路敷設時の資料はないか、引き続き話し合いを行っていきたい。

5. その他

事務局：史跡指定地の公有化に向けて、今年度から国に対して予算要望をする予定であったが、小中学校の教育を重視する新市長の方針や、予算等の関係もあり、市長、教育長、当文化財課での協議の結果、今年度は見送ることとなった。国に対する予算要望は、来年度以降に再度検討し、史跡指定地の公有地化を進める予定である。

事務局：次回の委員会は、来年1月または2月中を予定している。

6. 閉議